植物和名考 III

札幌市　増淵法之

前回に引き続き順序不同ですが植物の和名を紹介します。今回の分は札幌野の花の会の機関紙「野の花ニュース」(1994年)に連載したものを基礎に訂正、加筆したものです。この点はじめにお断りしておきます。

チシマフウロ

千島のフウロソウの意である。フウロソウはこの *Geranium* 属の総称となる。なおこの属にはゲンノショウコが含まれる。これについては別に一稿を設けたい。そのほかにはミツバフウロ、コフウロ、グンナイフウロ、ハクサンフウロなど産地や形態による名のついた多くの種を含む。

これらフウロソウには一般には風露草があてられるが牧野図鑑には「風露草は語源不明、漢名ではない」とでている。たしかに漢名は老鶴草である。したがって風露草は和製の漢名となろう。

風露草の名は涼風と露の意で季節感あるさわやかな名であるが、この名のはじまりは江戸時代に浅草の植木屋の主人がこの名をつけて売り出したによるという。

これに対して中村浩は新説を提出している。そのはじめにフウロの語源を考えるに問題となるのは風炉と風呂であろうと述べている。風炉は茶の湯の道具で湯を沸かすに用いるものである。風呂はいうまでもなく入浴用の風呂である。

両者に共通しているのは口が一方にあいているということである。なおこれらに類似のものに袋がある。

中村によるとこのフクロも一方に口があるのでフウロからの転であろうという。

この袋を名にもつものにホタルブクロがある。フウロソウの花の形はこれとは明らかに異なる。なお名はともなわないが袋状の花の形のアツモリソウやキンチャクソウもフウロソウとは花の形がやはり異なる。

中村はこれら袋を否定した上で鎮守の森をフロの森と呼ぶ方言に言及している。このフロの森とは神社の社（ヤシロ）を森が取り囲み一方があいており、そこが入口で一般にはそこに鳥居がある。つまりフロの森はコの字型なのである。

このフロの森は一方が開いているということで先の風炉、風呂と共通の形態である。

このコの字型と同じ構造になっているものに草刈り場があるという。この草刈り場は周りに防風林が三方にあり、コの字型に